



The story of them.

# 惑るアイの話

The legend of Zelda BOTW  
Revali×Link  
For adult only

¥18



或

る

\*

冥

冥

\*

の

話



## 或るアイの話

発行日 2025年8月31日  
発行 マモノサイダー  
発行者 天  
連絡先 X/blsk:@mamonocider  
pixiv id=69842180  
mamonocider@gmail.com

印刷

STARBOOKS

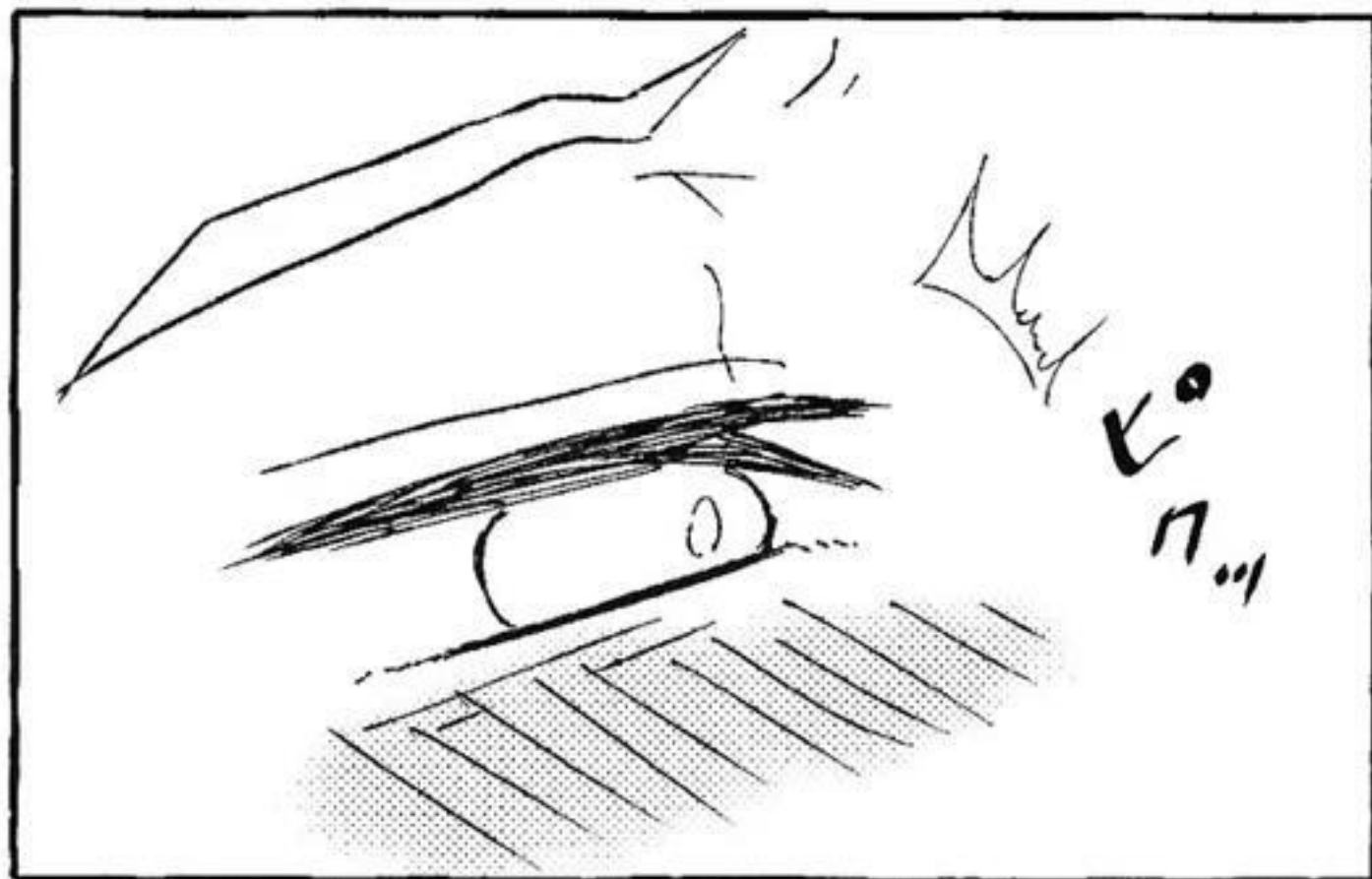
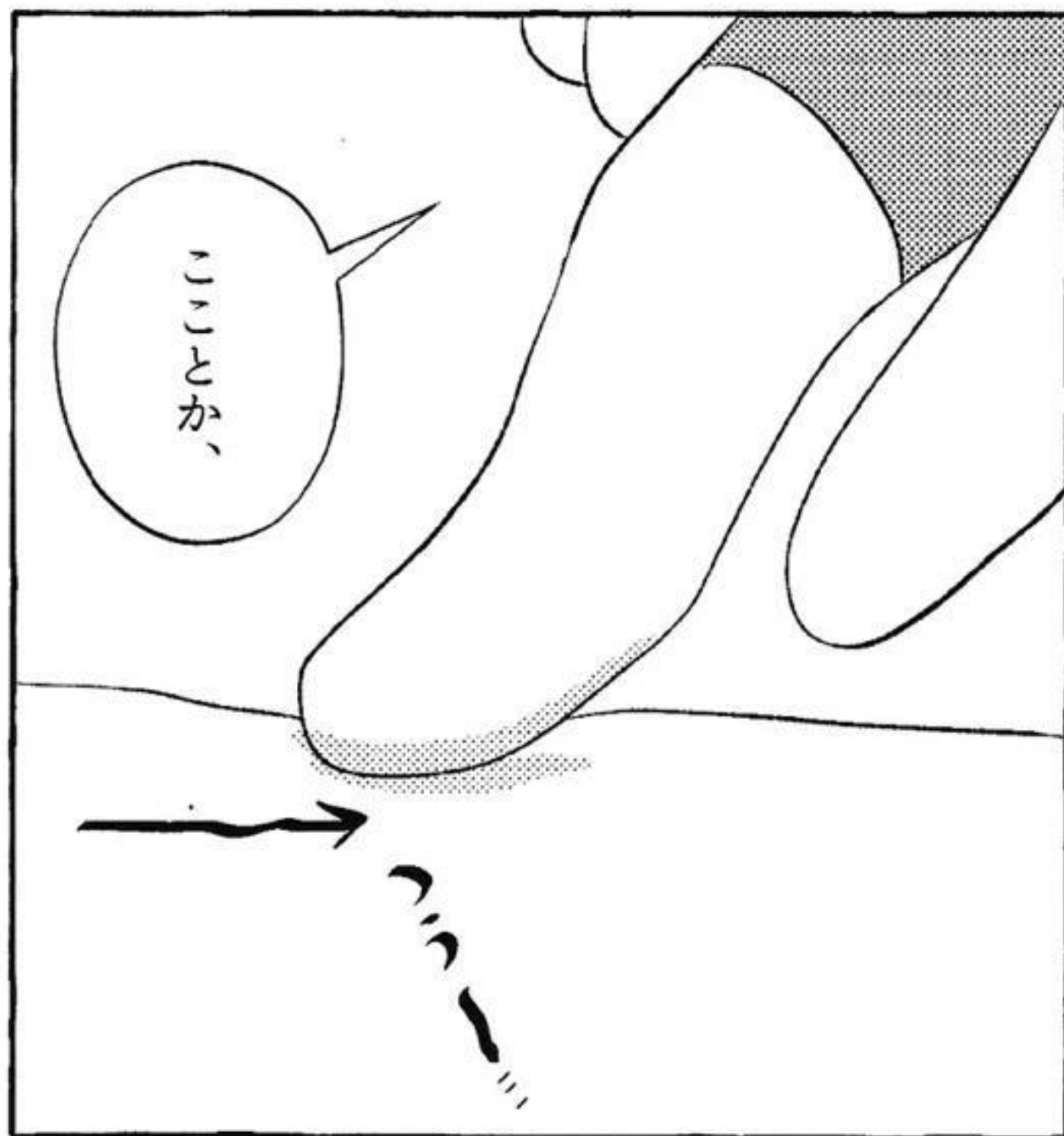
wavebox



感想お待ちしております！

無断で転載・複写・複製、オークション・フリマアプリへの出品、  
SNSやWEBサイトへの投稿を固く禁じます。  
この本は非公式ファンブックです。著作権関係者様とは一切関係ございません。





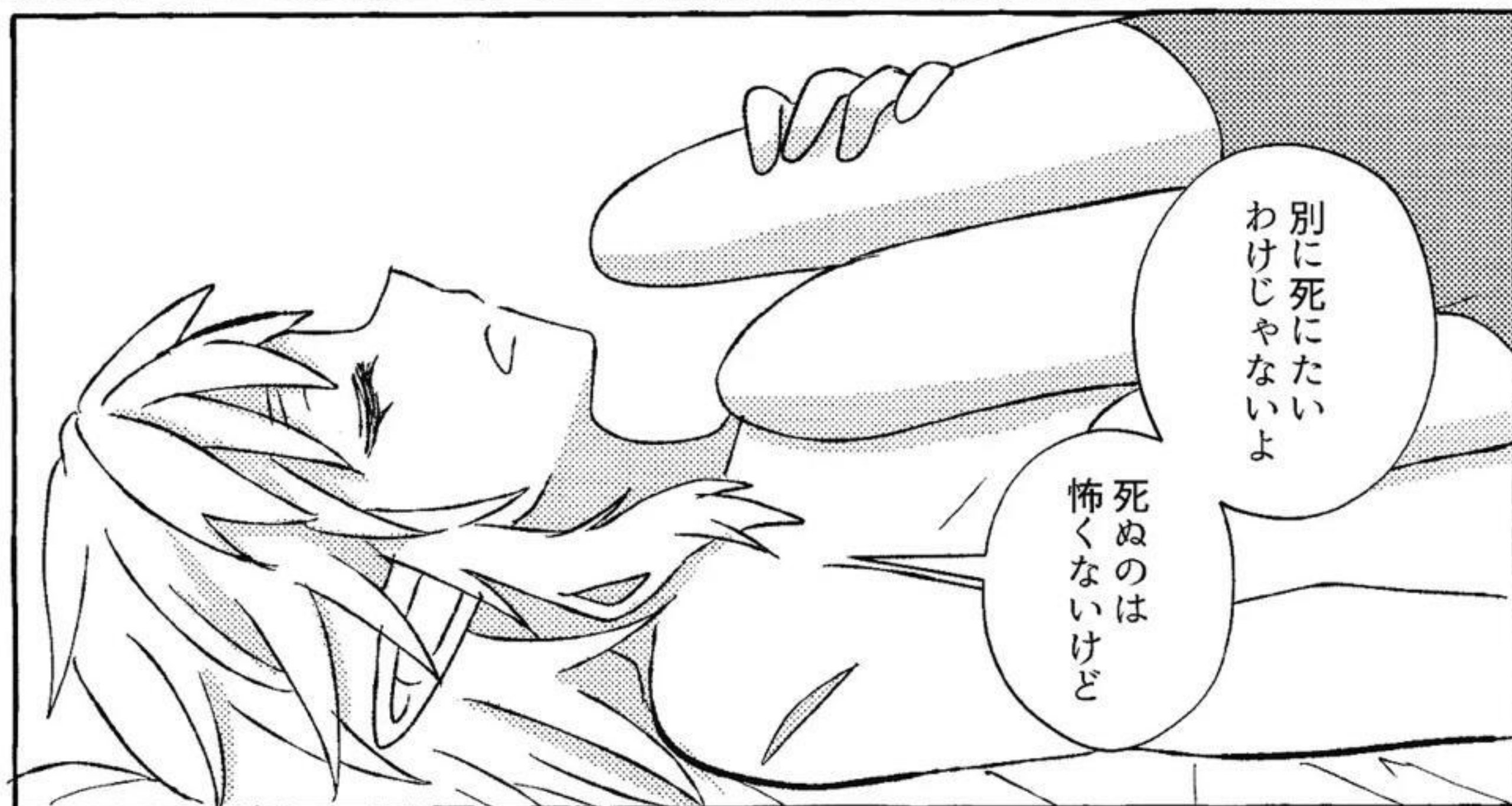




傷の数が勲章  
代わりかい？

さすがは  
救国の勇者様だ

死に急いでる  
って？



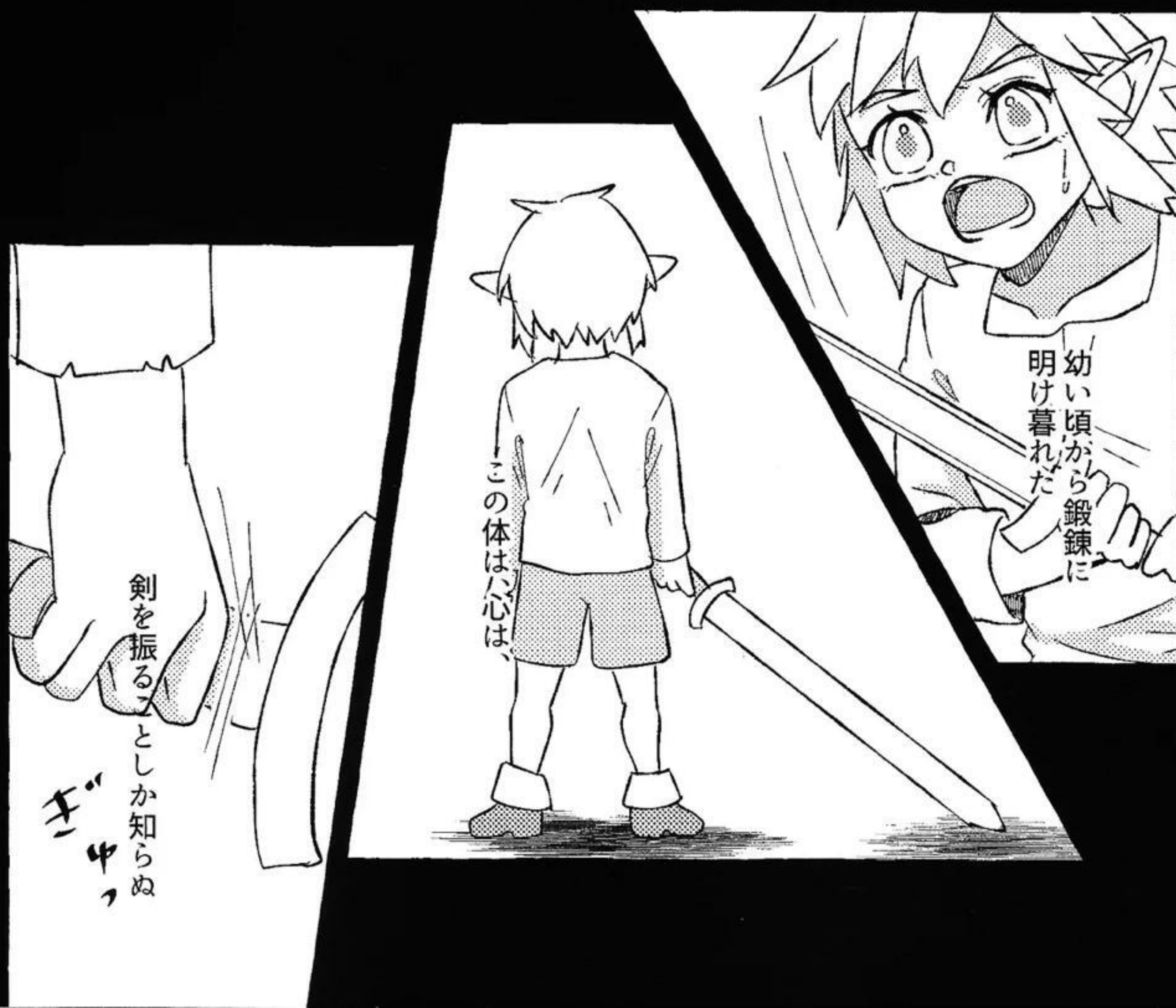
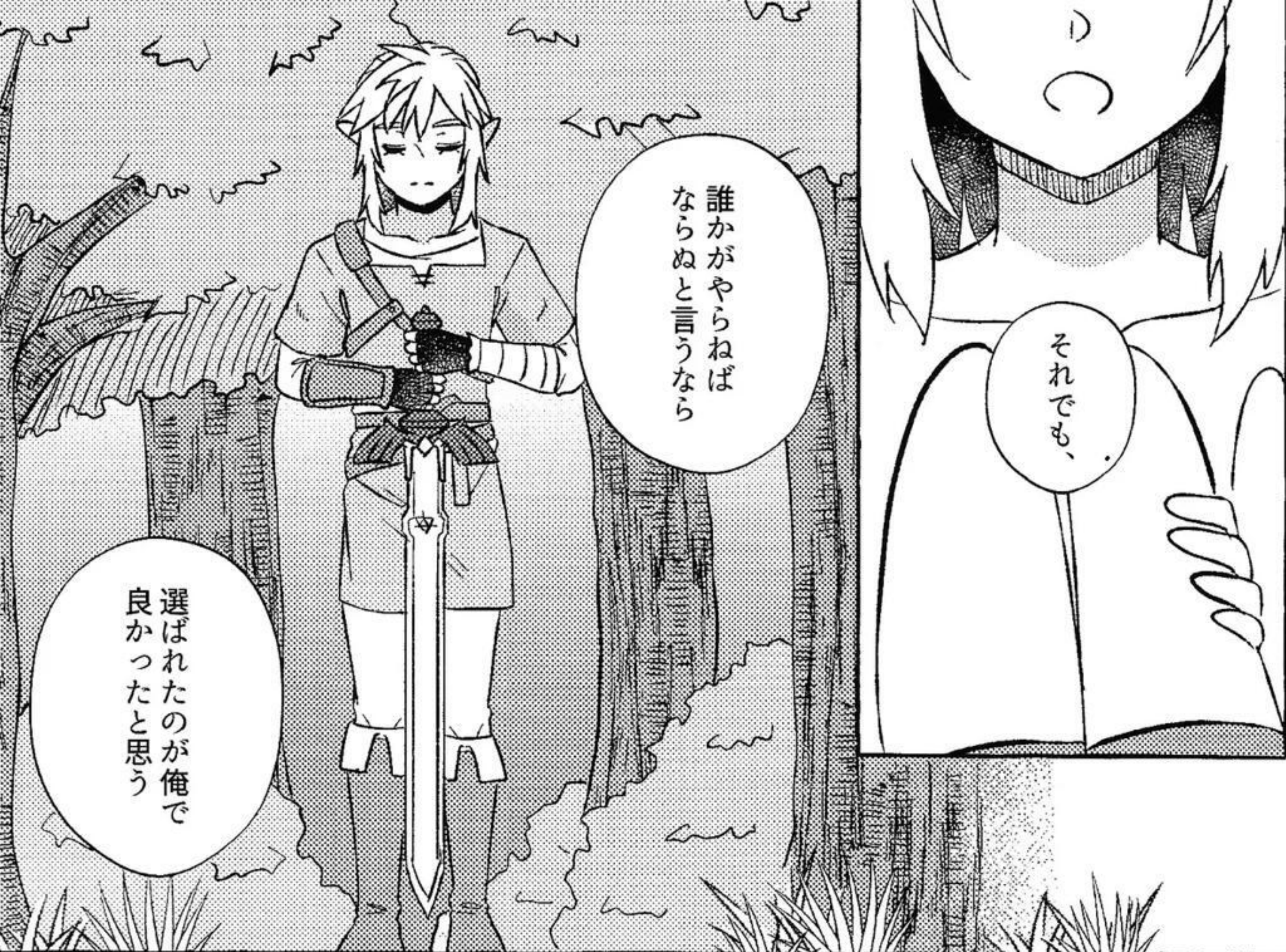
別に死にたい  
わけじゃないよ

死ぬのは  
怖くないけど

選ばれたかった  
わけじゃない

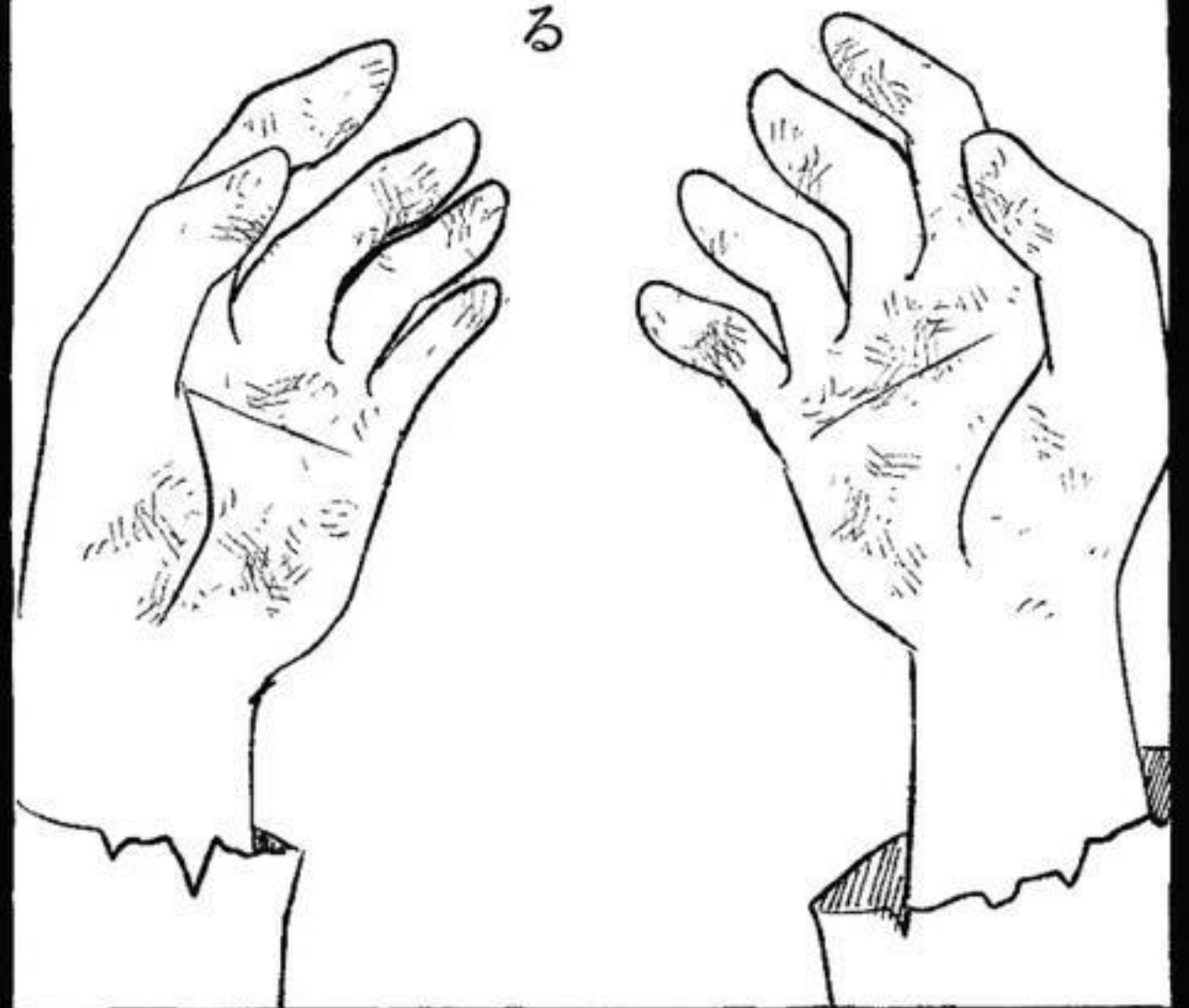
望んで勇者に  
なったんじゃない







この両の手で  
誰かを抱きしめる  
ことなど



誰かを愛することなど

誰かに愛されることなど



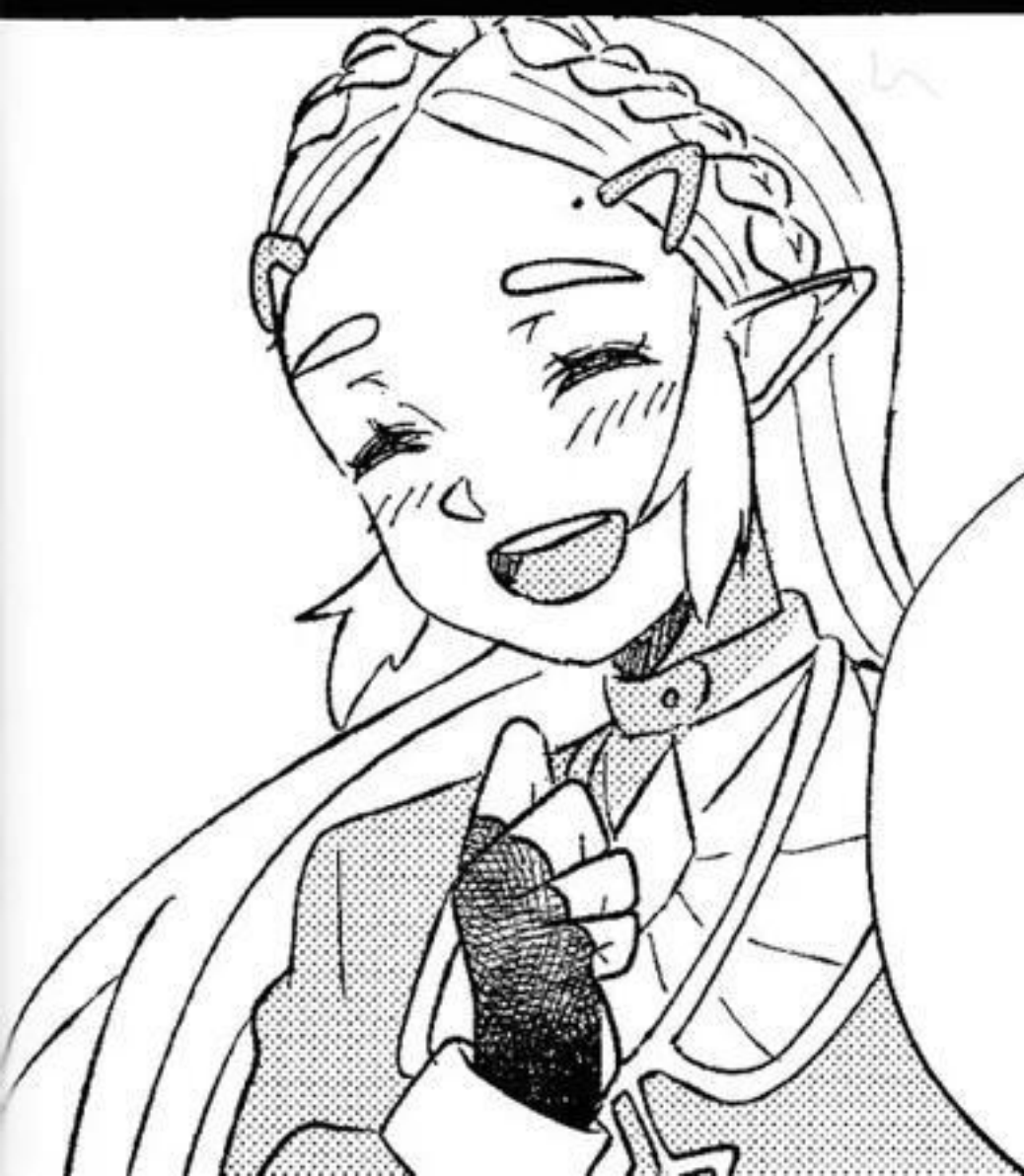
知らぬままのほうが  
この世界は生きやすい

姫様のお役目も  
俺が代われたら  
よかったのに

すり...

そうすればあの方は  
自由に生きられる

辛い修行も  
しなくていいし、  
望むことをして  
笑顔でいられた



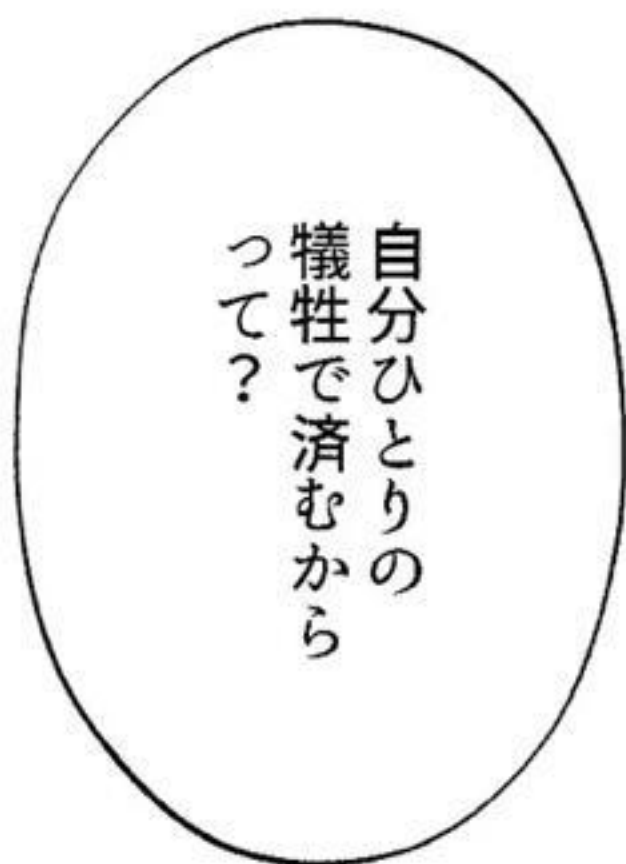




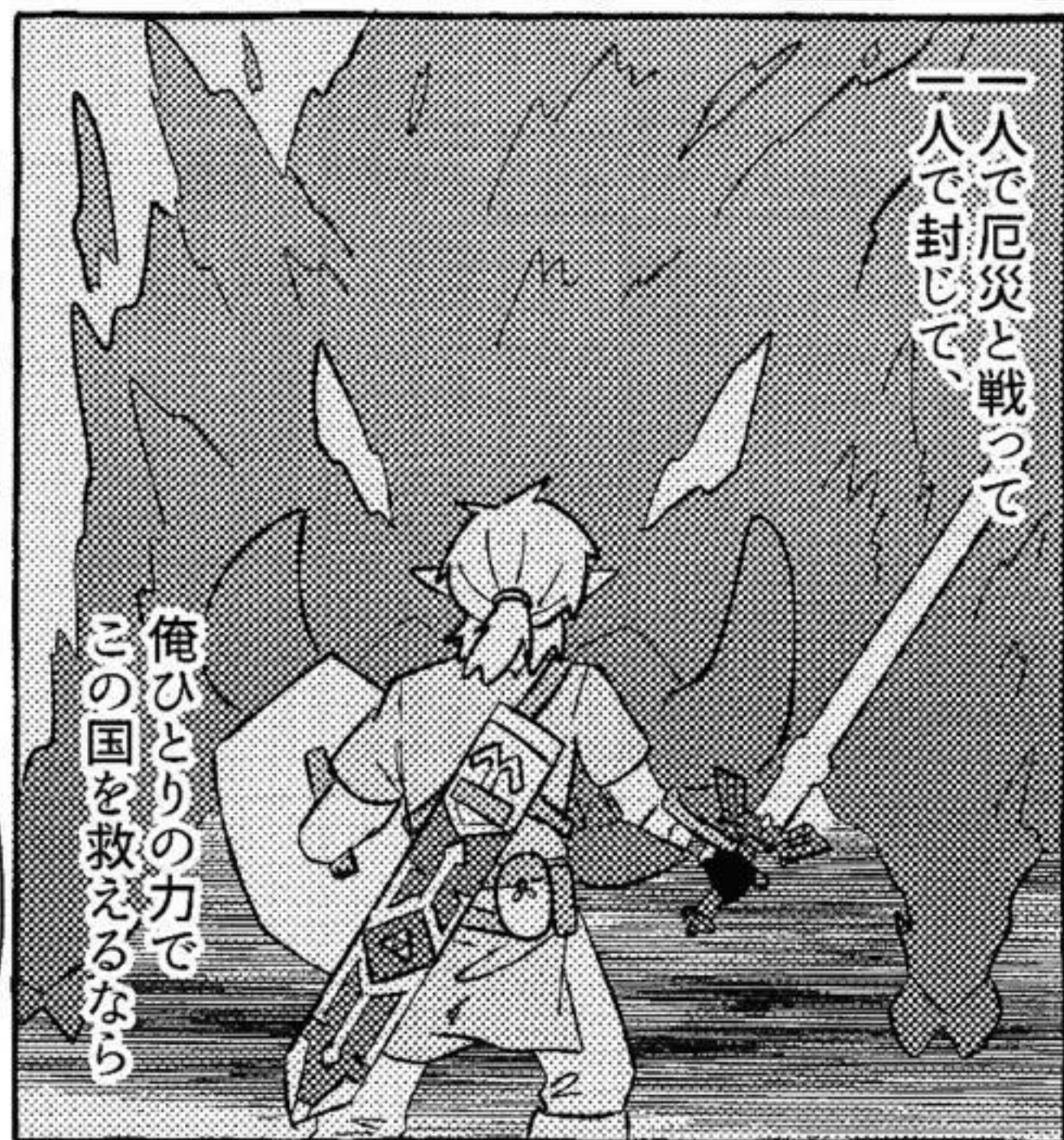
代われたとして、  
君はどうするんだい



どうする  
って……



自分ひとりの  
犠牲で済むから  
って？



一人で厄災と戦って  
一人で封じて、

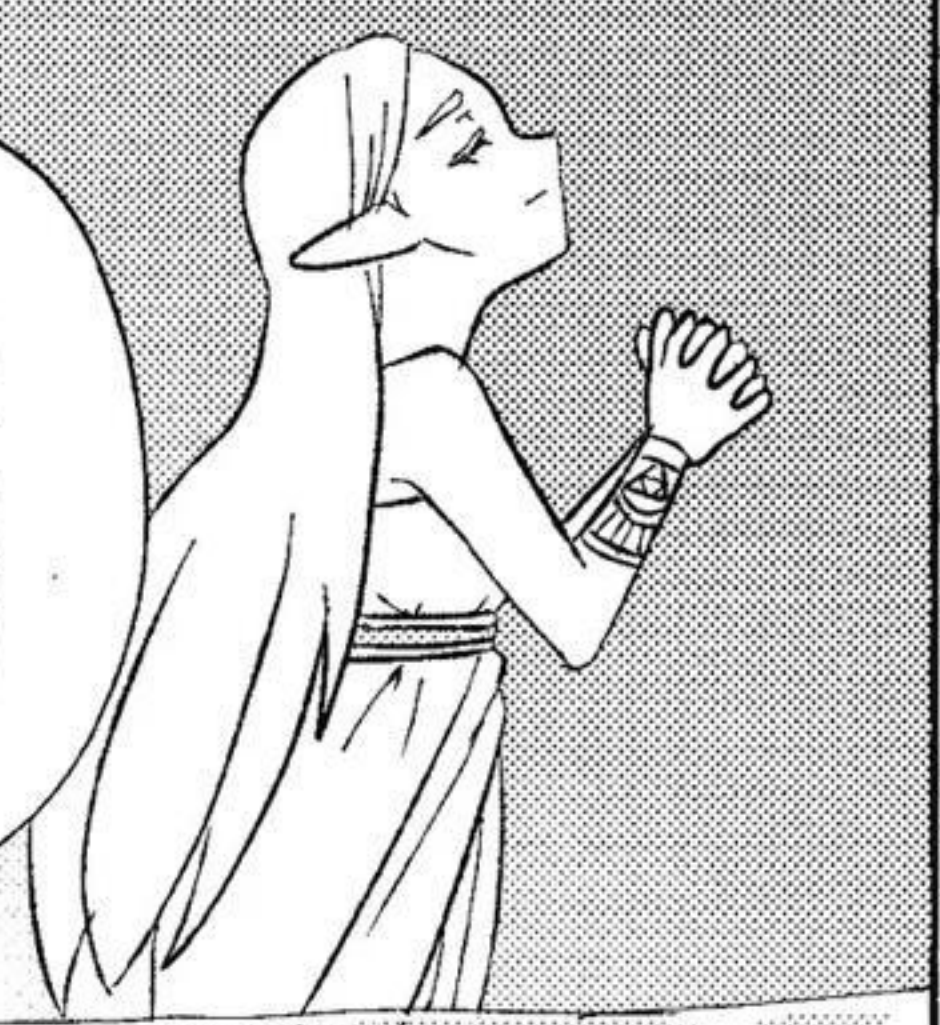
俺ひとりの力で  
この国を救えるなら



それ、間違っても  
姫には言うなよ

言わないよ





あの方の努力を  
一番近くで  
見てきたのは  
俺なんだから



でも、



姫様にはこれ以上  
辛いことも苦しいことも  
経験してほしくない



笑っていて  
ほしい

彼女を  
愛しているから



…フン、

素晴らしい敬愛だね





僕は君ひとりが  
英雄として讃えられる  
世界なんてまっぴら  
ごめんだね



それに、  
あまり  
みすばらしく  
してくれるなよ

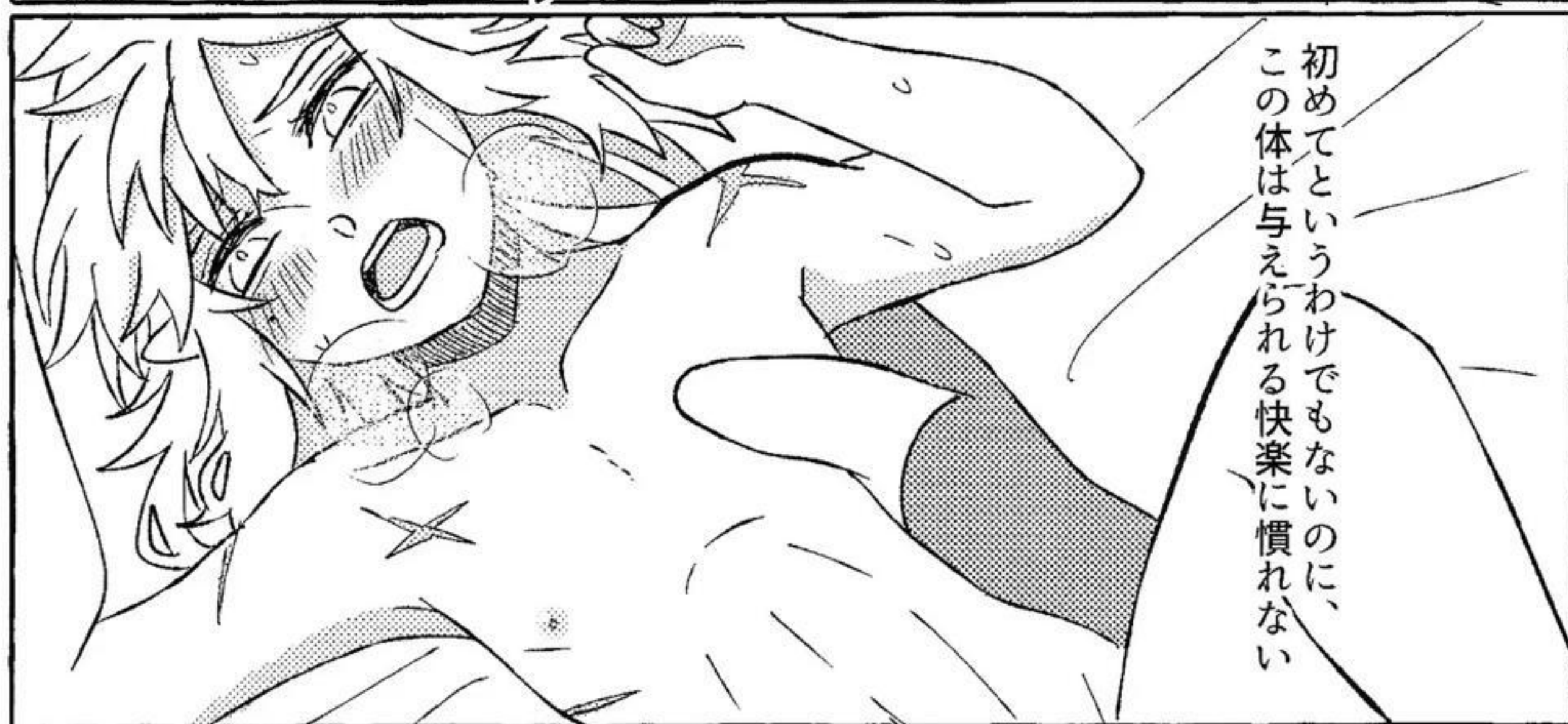
この僕の愛した  
体なんだから



体だけ？

さあ？  
どうだろうね









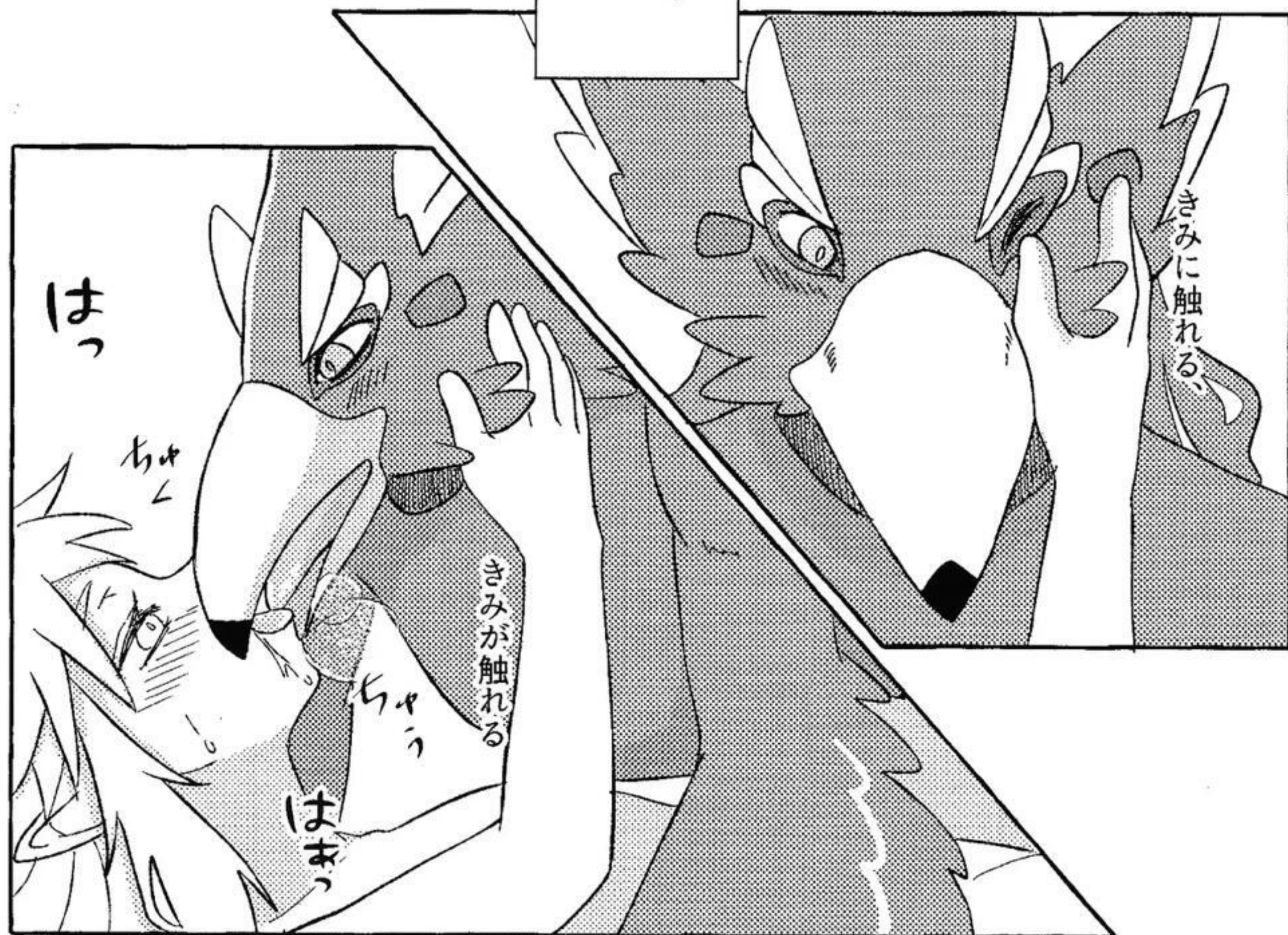








リーバルとの  
セックスは  
好きだ







俺は、

きみのことも  
愛してるよ



よく言うよ  
言葉の意味も  
わかってない  
くせに



知ってるよ

モ

3!

だつてきみの心音は  
生ぬるくて  
心地がいい

トクミ

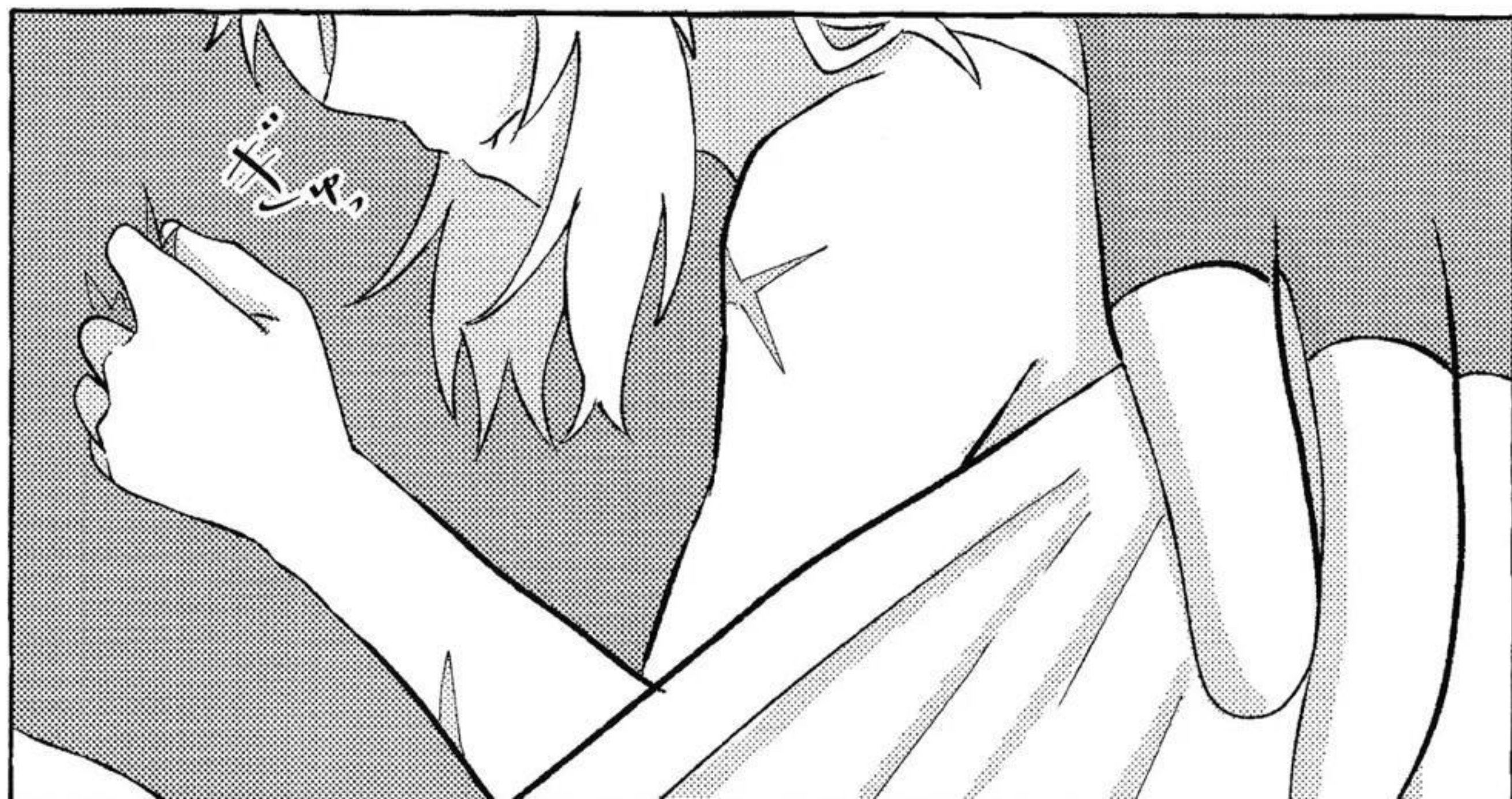
トクミ



この羽根の  
柔らかなぬくもりが  
なくなって  
冷たく硬い骸に  
なってしまったら  
と思うとゾツとする

憎まれ口を  
叩く嘴がひび割れて  
嘔らなくなったら  
と思うと怖くて  
たまらなくなる

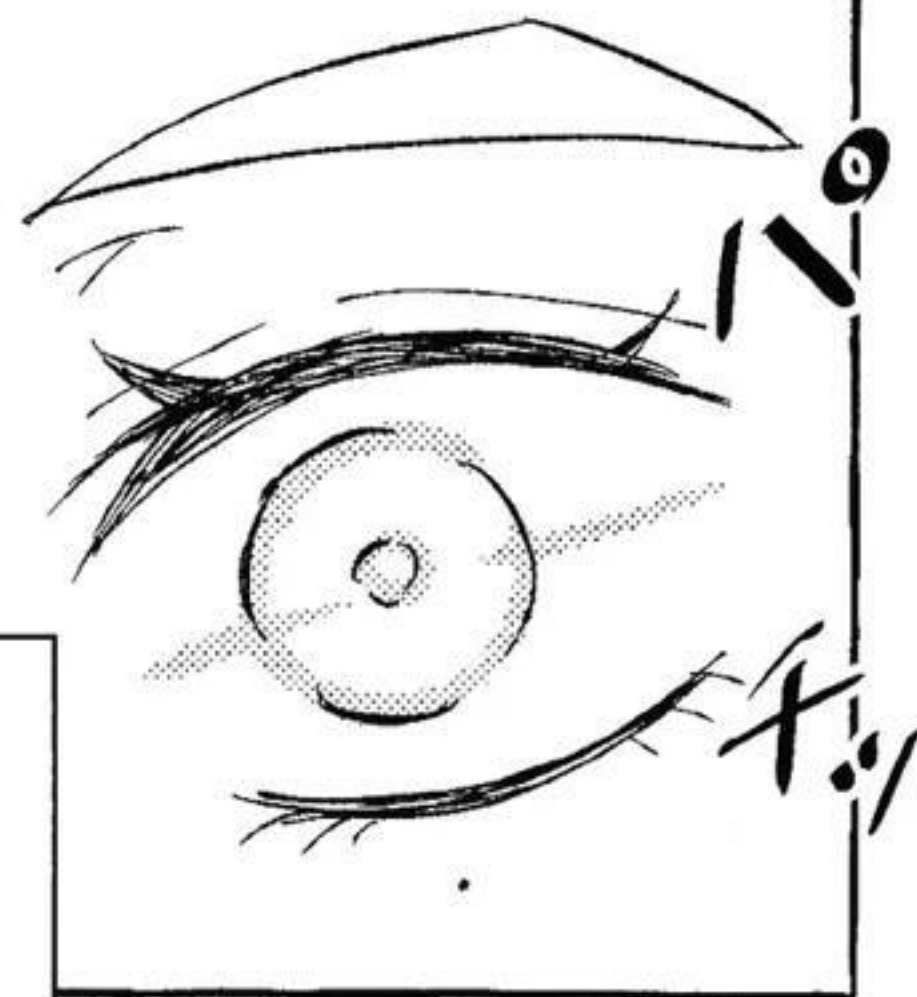
でも、もしもきみとの  
別れが来るなら、  
そのときは





きみとの終わりは  
死別がいいな





目覚めと共に  
薄れていく情景

夢、か…



時々見る

朧気で心地の良い夢





それが百年前  
失くした記憶の  
欠片なのか



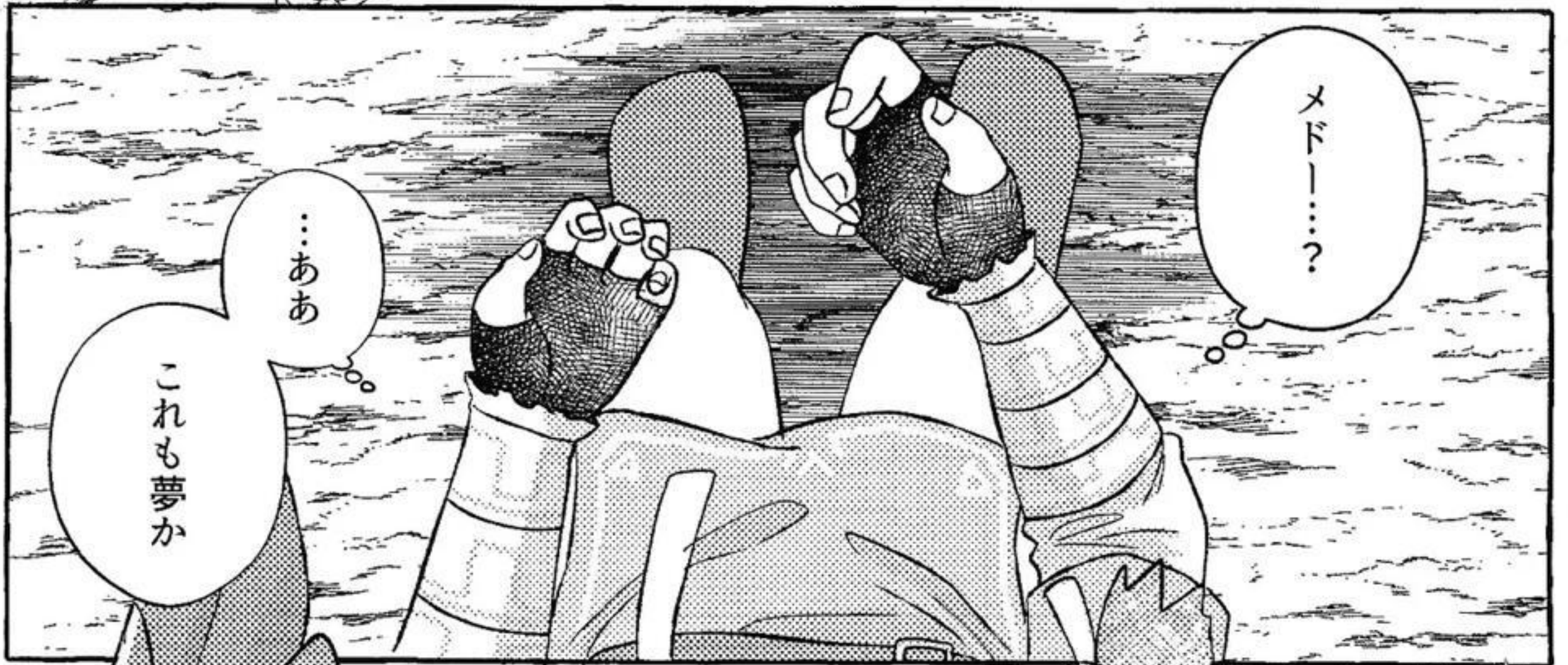
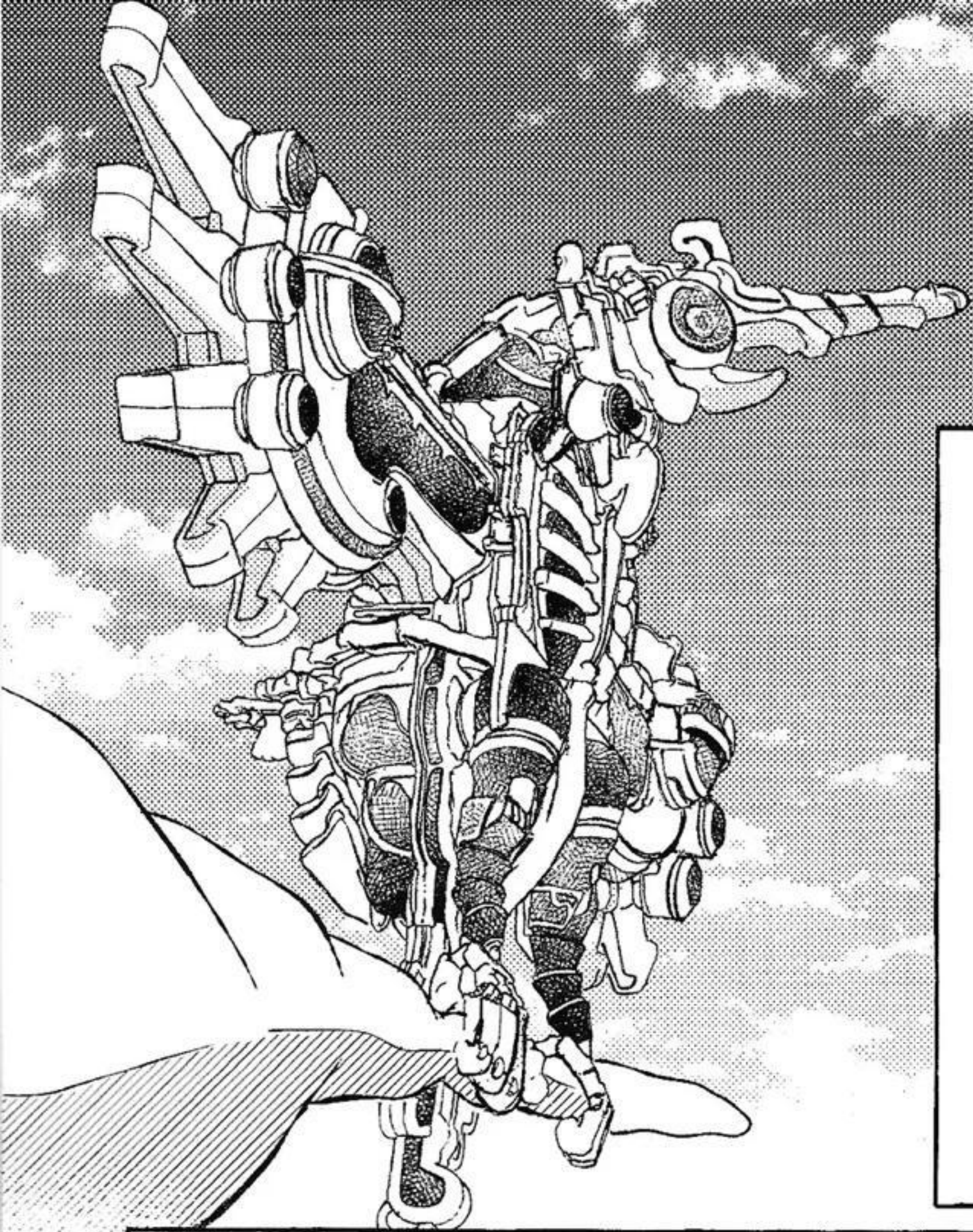
ただの都合のいい  
妄想なのか

今の俺には  
それすらわからない

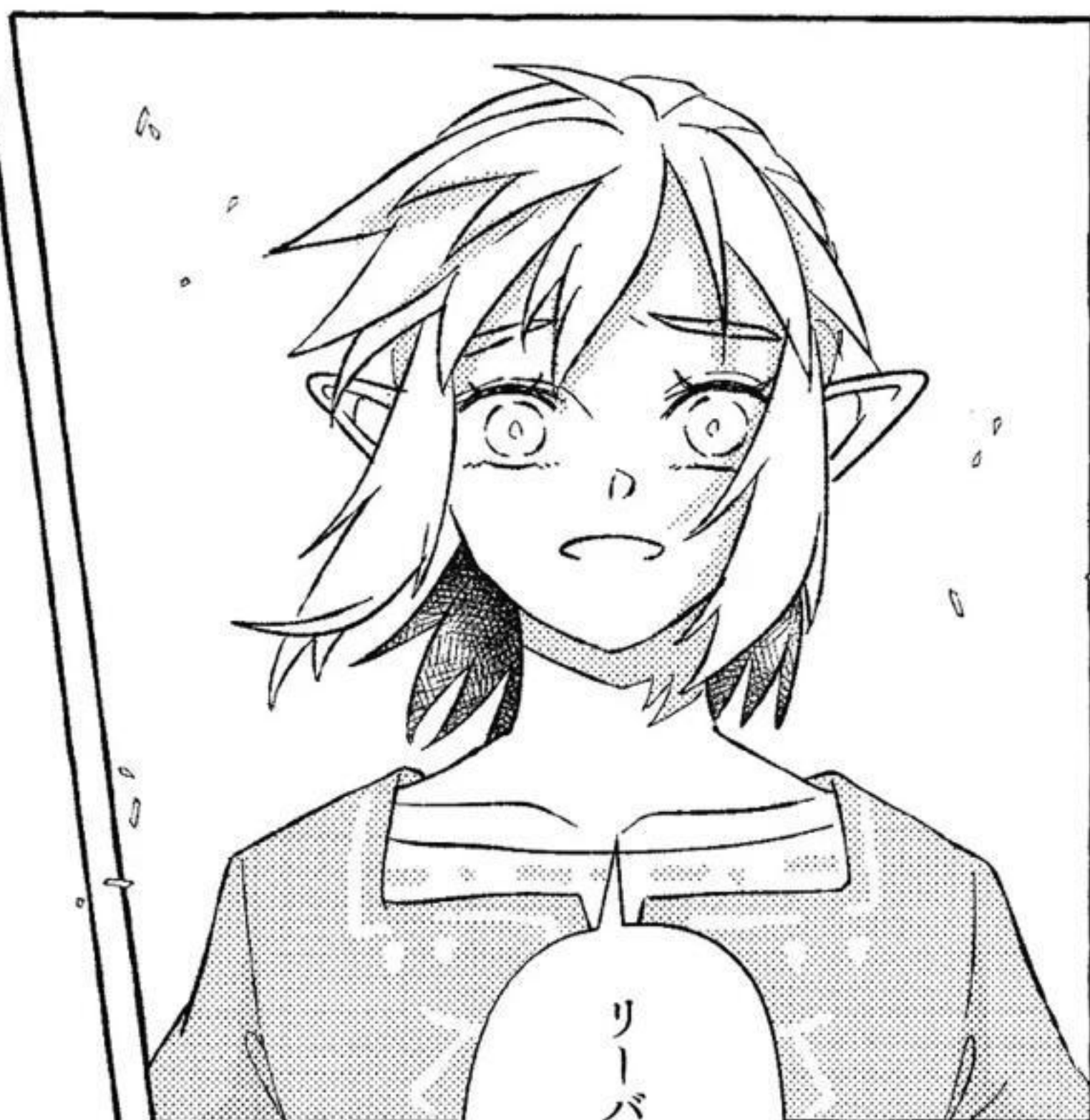
会いたいよ  
リーバル…

ぽん…









リーバル…？

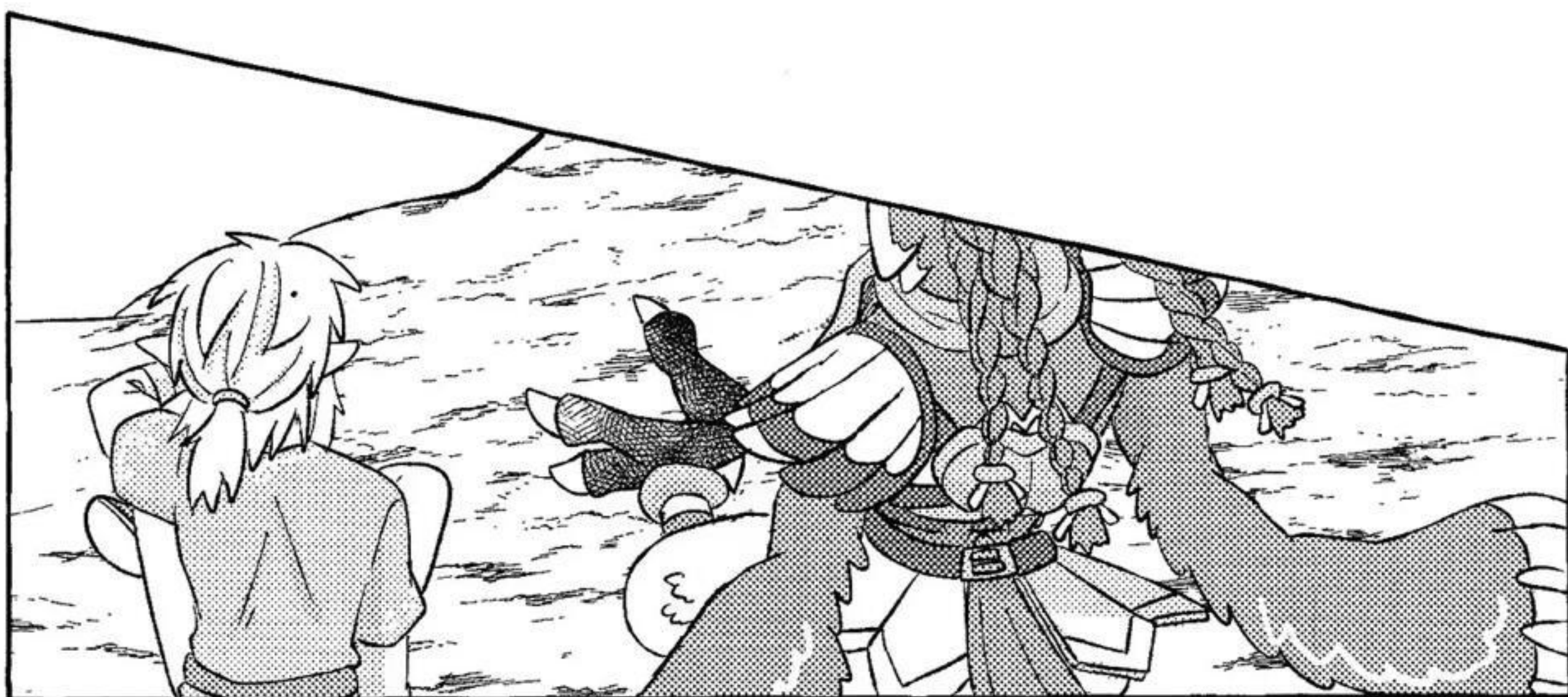








夢の中のリーバルは  
喋らない











隣に寄り添って  
いらればそれで

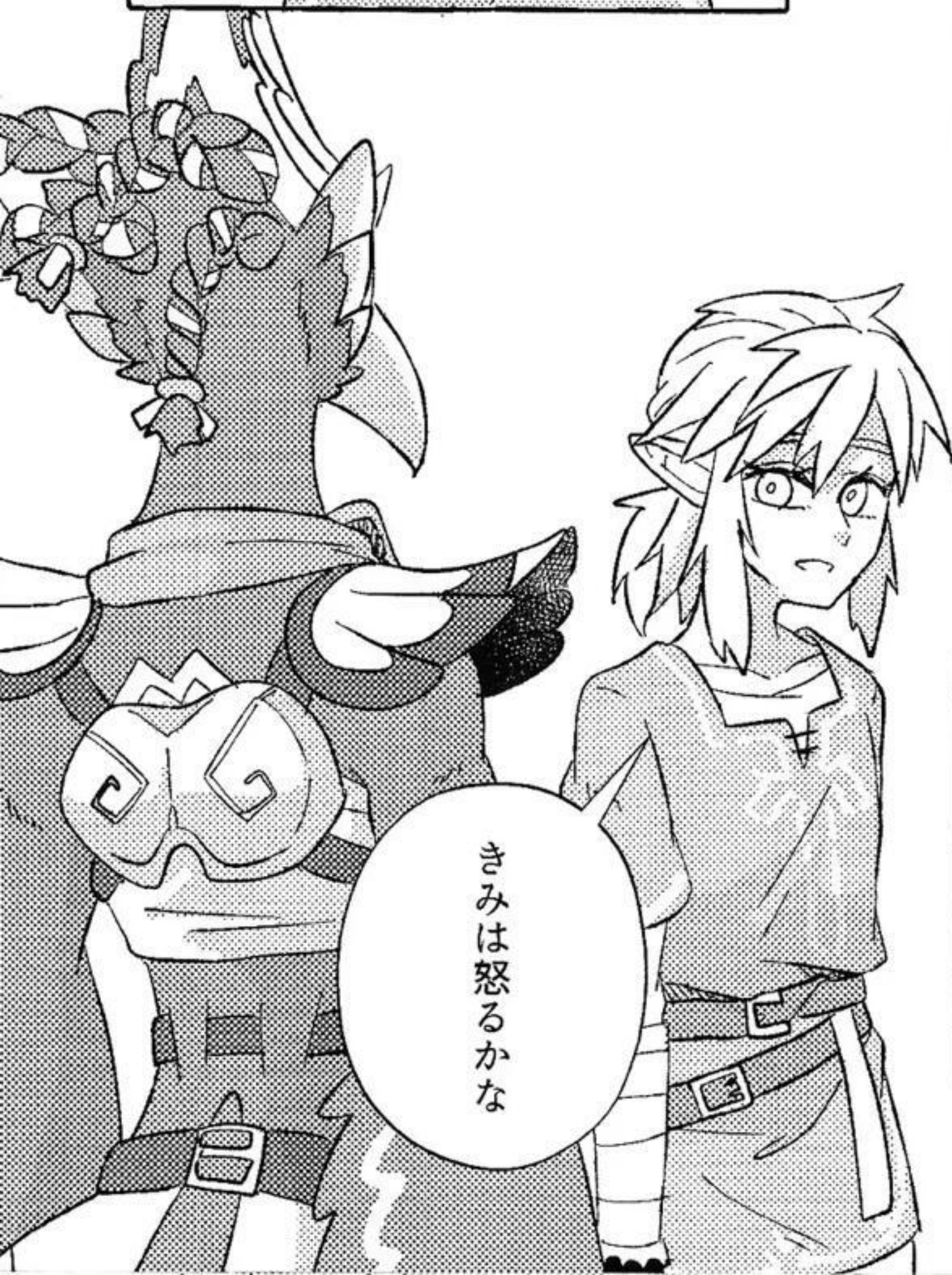
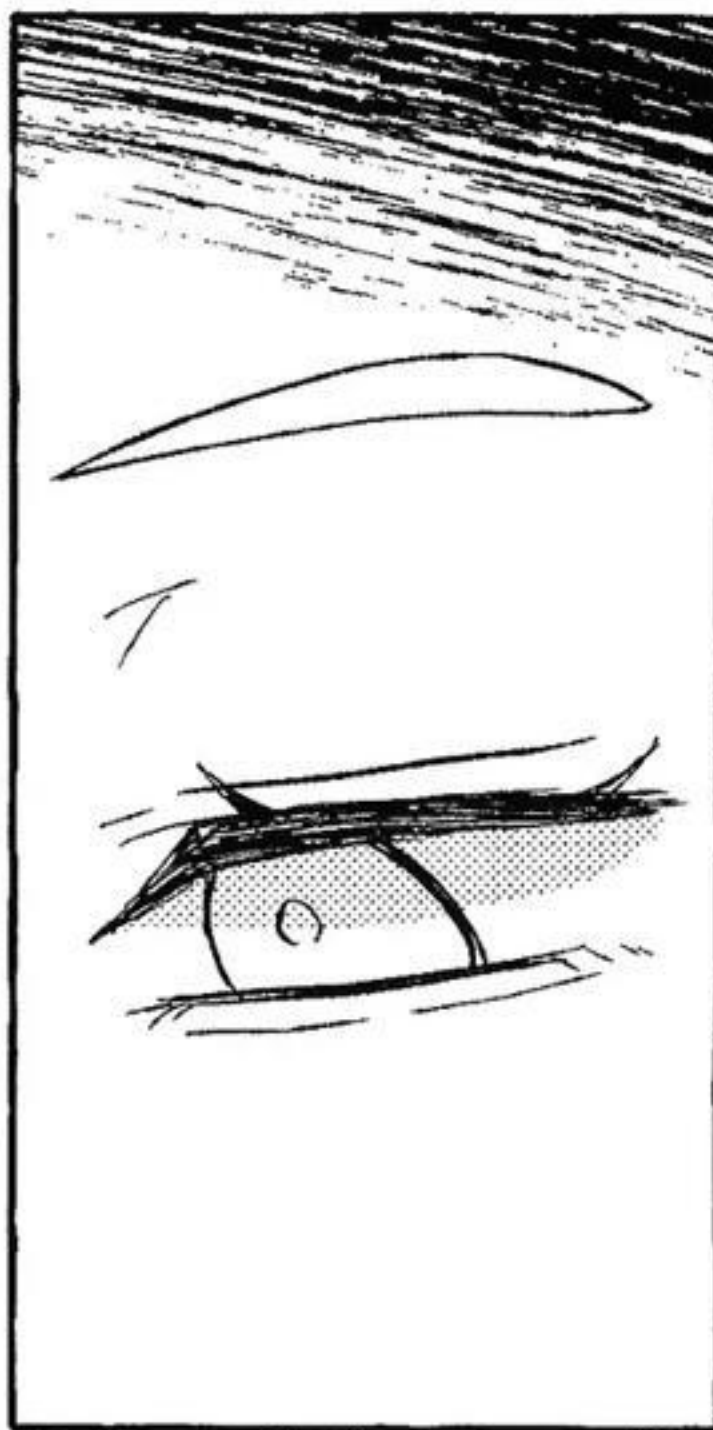


それならばただ





この夢ももう  
何度目かな…

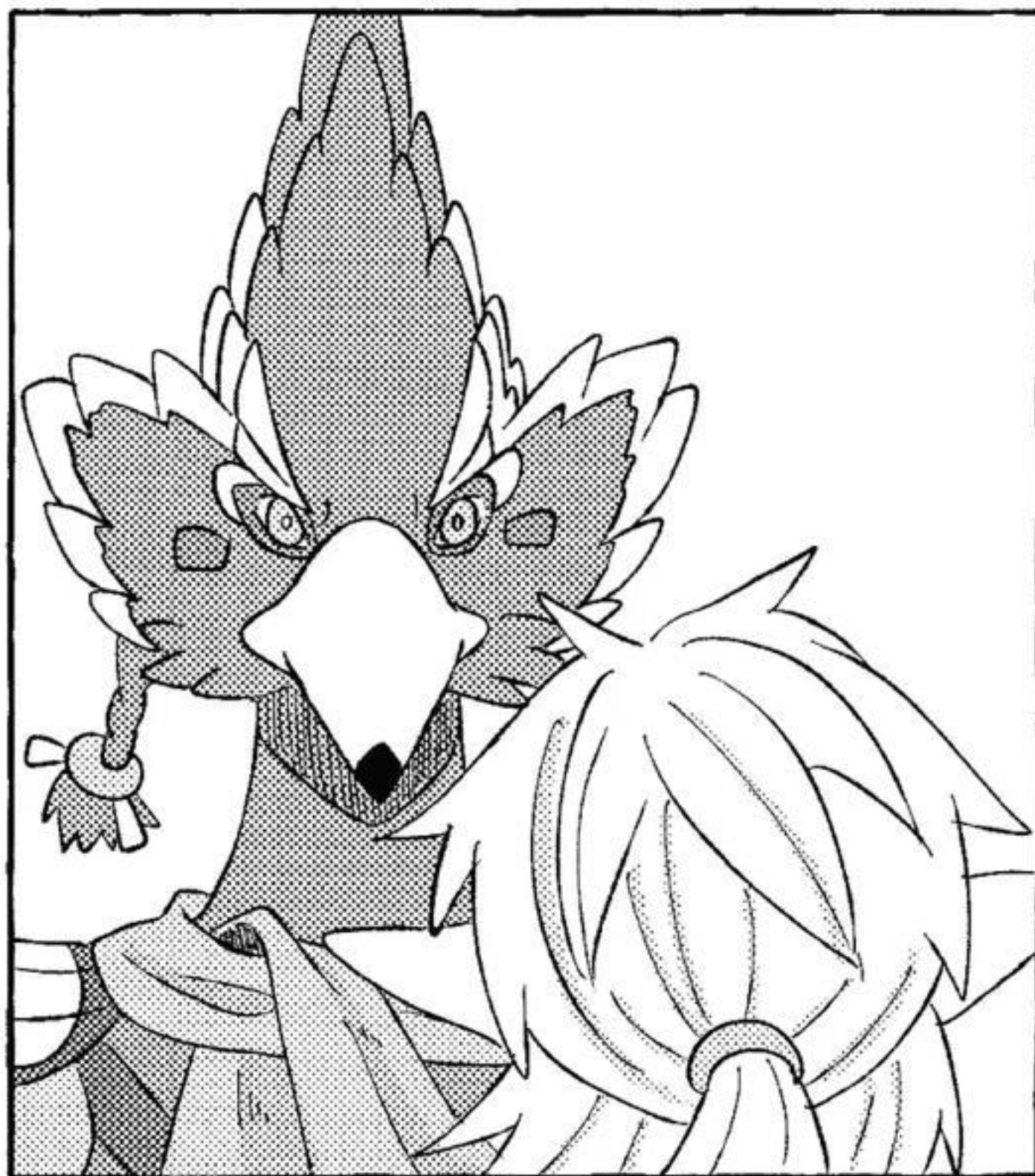
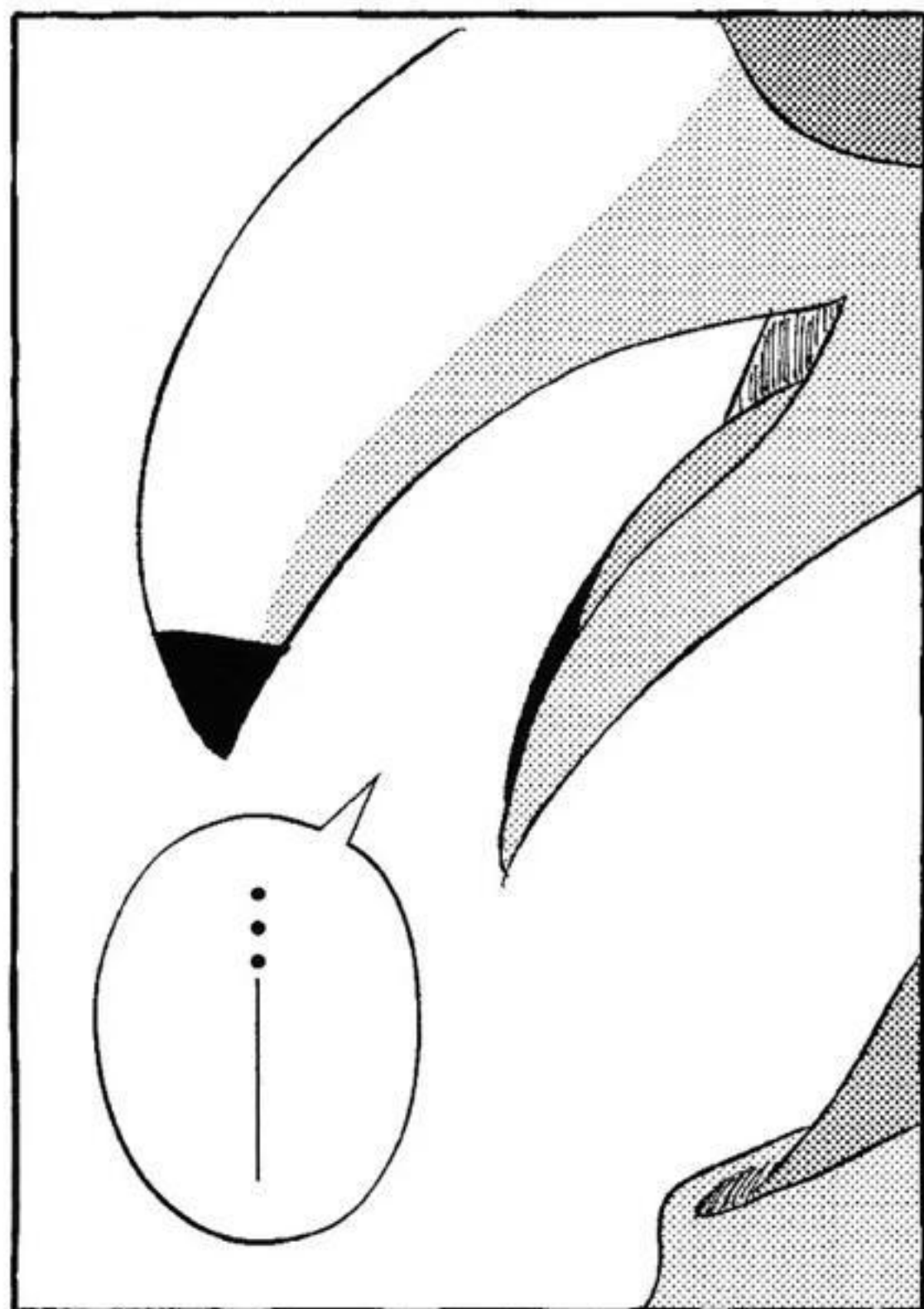


きみは怒るかな



いつまでも  
未練がましいって





意地悪な声が  
聞こえた気がした



なんて都合のいい  
夢だろう

本当はもうここに  
きみがいないこと、

これは俺の望んだ夢

わかってるのに

…リンク

リンク、





僕はまだここにいる

君に伝えたい  
ことがあるんだ

でもここは君の夢だから  
僕は言葉を持ってない

君がそれを許さない

未練がましいのは  
僕の方だ…



あのとき  
はぐらかさなければ  
良かった、なんて



僕は君のこと、







姫様が待ってる



そろそろ  
行かなきゃ

今度こそ  
彼女の笑顔  
を守りたいから



俺は今更気づいたのだ

君が好きだった

君を“愛していた”





この体は、心は、

とつくに  
愛し愛される  
ことを知っていた



それも遠い過去の話  
きつとすべて  
都合のいい夢の中の話

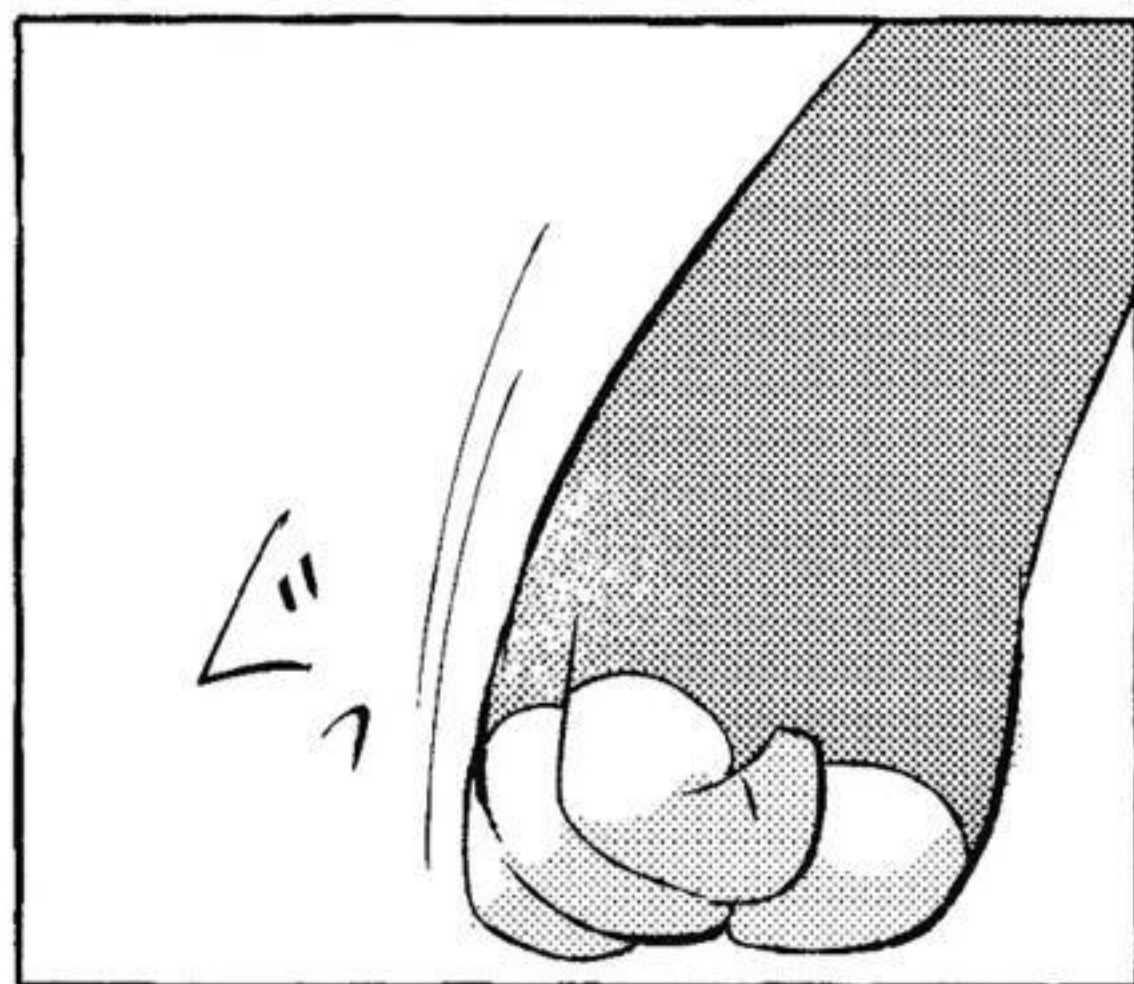
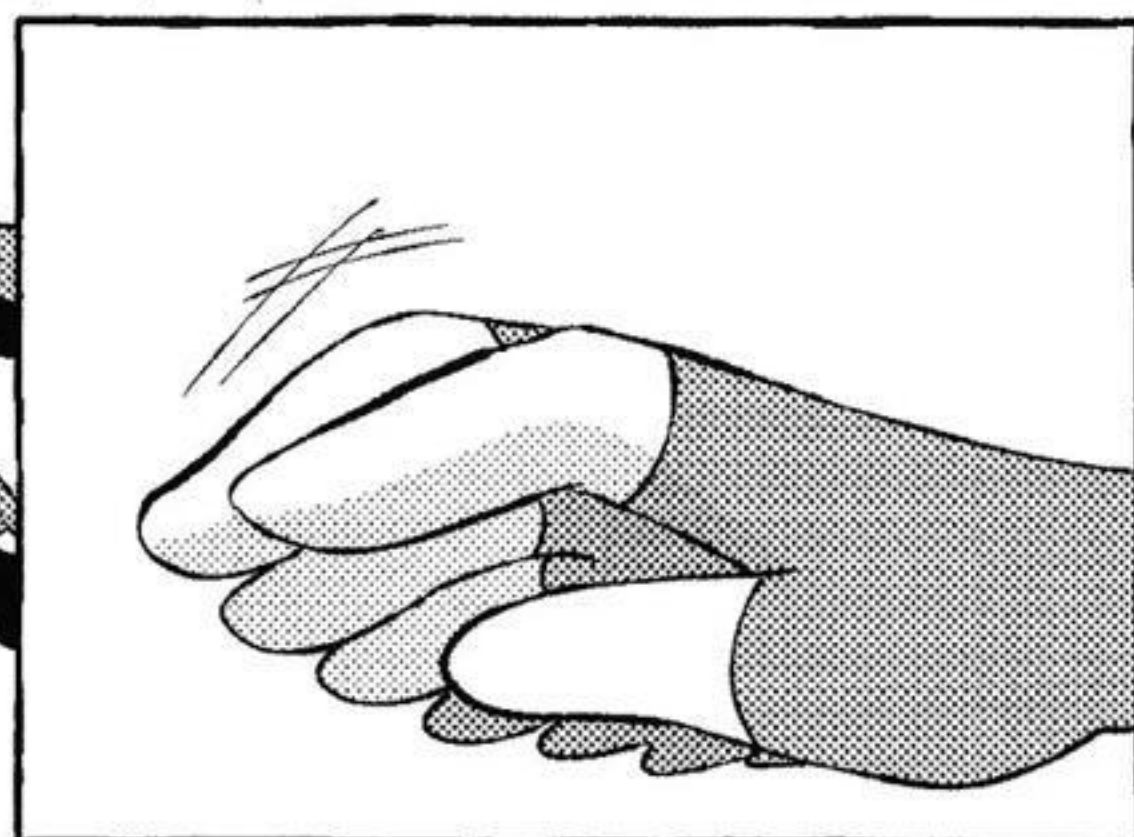
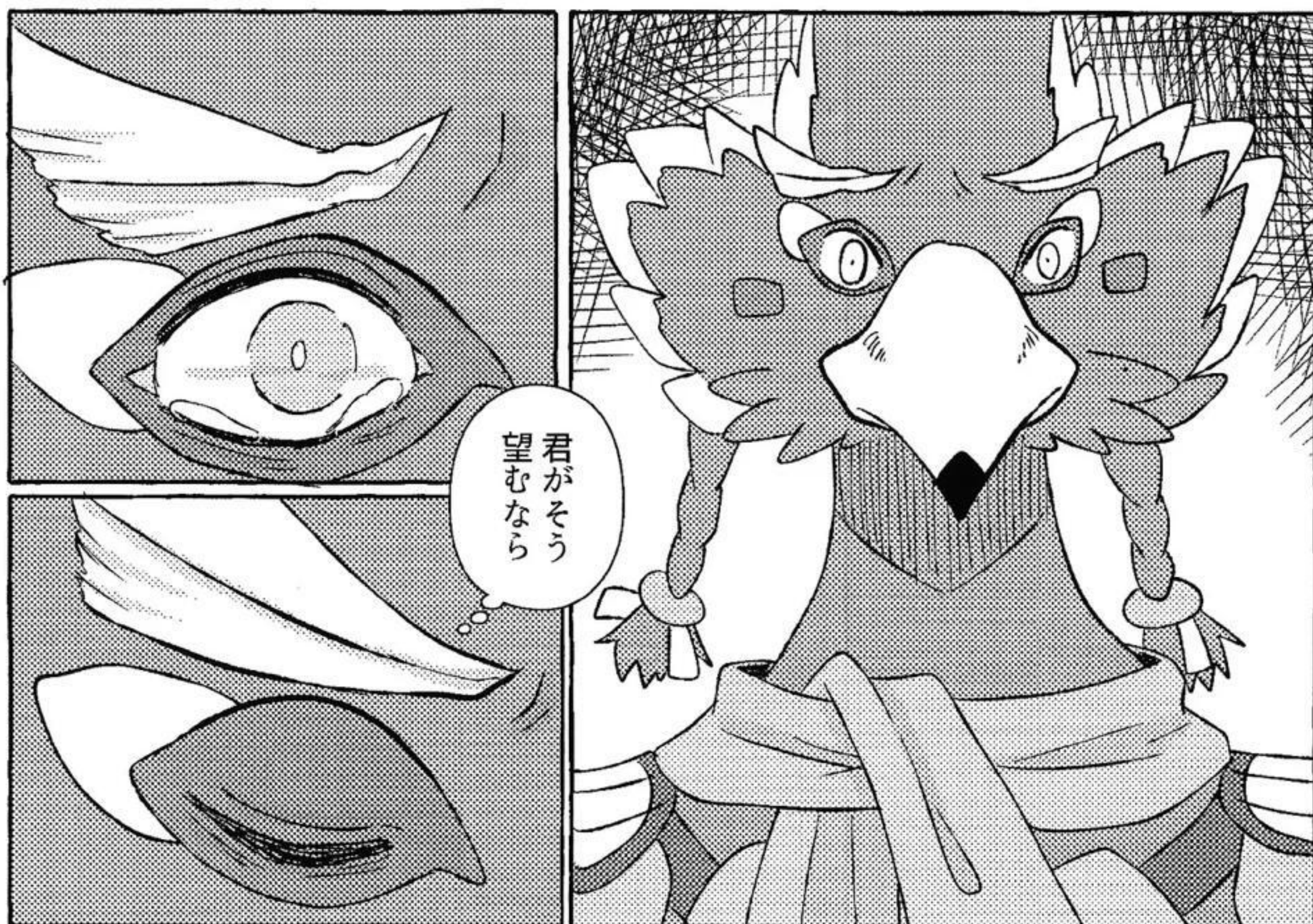




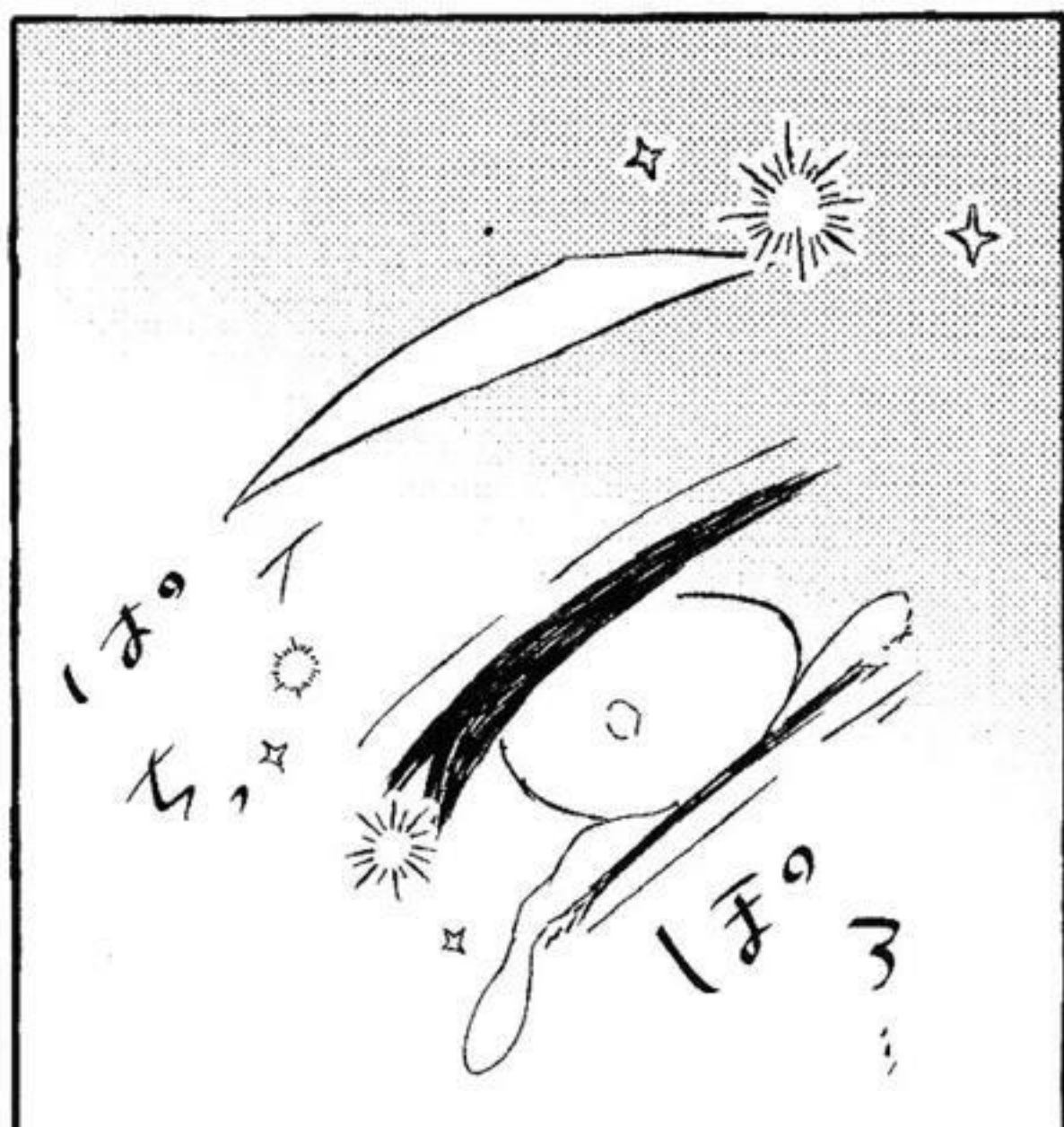
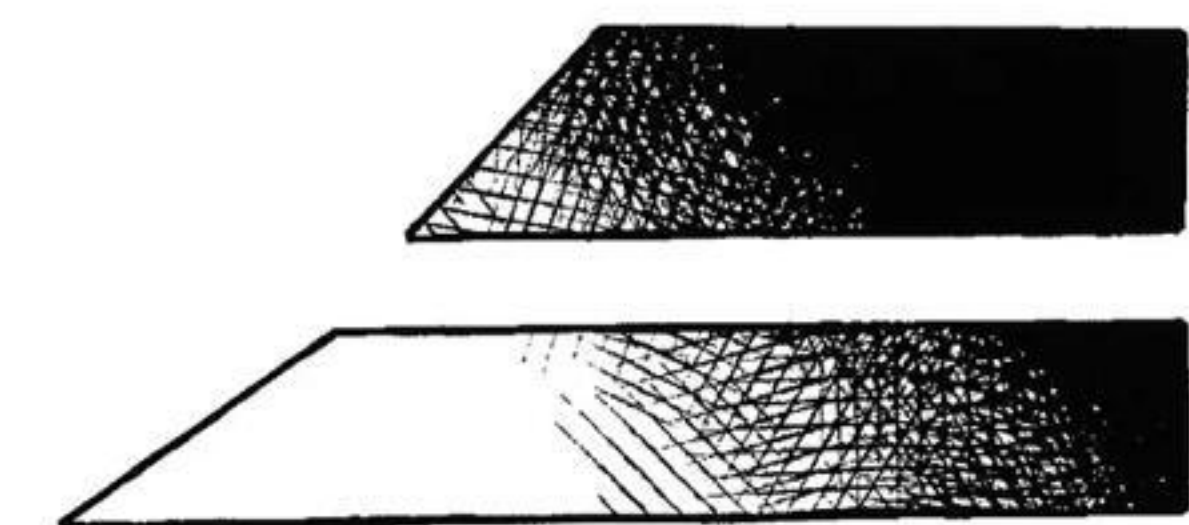
この両手は  
きみだけを  
抱きしめては  
いられないから

さよならだ、リール





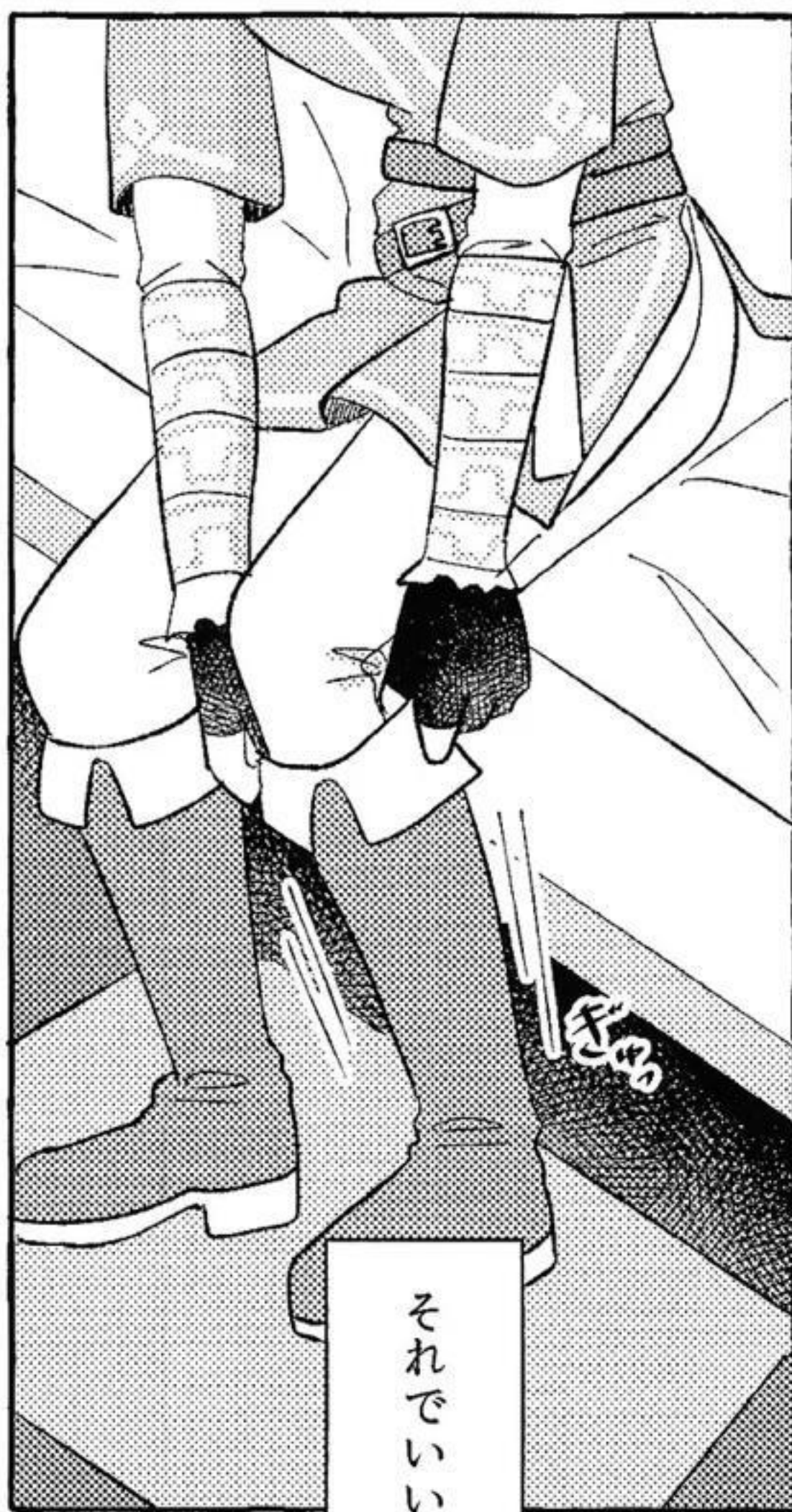








それきり夢に  
リーバルは現れない



それでいい

あの夢の続きみたい  
にきみを愛したままで  
いられるから  
きみに愛されたままで  
いられるから



きみとの終わりが  
死別でよかった





The Legend Of Zelda  
Unofficial fanbook #10  
Revali×Link  
by mamonocider